

土石流による人災をゼロに



さぬき市長 大山茂樹

さぬき市は、香川県の東部に位置し、平成14年4月1日に、旧大川郡の8町のうち、5町が合併して誕生し、「白砂青松の津田の松原」「緑豊かなみろく自然公園」「東瀬戸内海眺望の大串自然公園」「水辺と森に囲まれた門入の郷」「桜の名所亀鶴公園」など、歴史的、文化的観光資源を有しております。その中で、大串地域には、四国で唯一のワイン工場「さぬきワイナリー」があり、市内などで生産されたデラウェアなどのぶどうを原料に作られたワインの購入や製造工程の見学、試飲ができます。

また、門入の郷では、門入ダム(貯水量290万トン)周辺で、例年、県内外から、よさこい連などでにぎわう「門入よさこい」祭りを開催しています。被災にもめげず、平成17年には災害の爪あとの残る土石流の堆積土砂上で開催し、熱気で湖面を焦がすほどであったそうです。

さらに、四国霊場88カ所のうち、上がり3カ寺を有する「結願のまち」として、もてなしの心、いやし文化の発信基地となっています。

しかし、平成16年の台風23号の襲来時には、豪雨による土石流が発生し、5名の尊い命が奪われ、家屋の崩壊27棟、床上床下浸水3,047棟等、甚大な被害を受けました。

なかでも大川町田面の森行地区は急傾斜地であることから、幅員5mの市道が約300m崩壊し、その跡地が溪流と化し、特に通谷川では土石流が発生し、1名がその犠牲となりました。

ご近所の方にお聞きしますと、その方の家は「ふあつ」と浮かび上がって、くると西に向きを変えて、「ダァーツ」と流れたそうです。

また、裏の道路は川となり、大きな何トンもあるような岩が立ち並びました。

このような中でも、「家を直撃するはずの土石流を止めたのが砂防堰堤だったと胸をなでおろし、ほっとした。堰堤様々やのう。」と九死に一生を得た方もおられたようです。

本市では、16年災害のような人的被害を防止するため、防災のしおりとハザードマップを平成17年8月に作成し、全戸に配布しています。

また防災行政無線を整備し、情報通信網の共有化を図ることで被害の軽減、人命の保護に努めております。

さらに、この地区は、土石流災害警戒区域等の指定となり、避難体制の充実を図っています。

土石流対策としては、香川県は山と海が接近していることから、中山間地域や下流の平野部の災害を防止するには、やはり砂防堰堤を設置することが第一であると考えています。

現在、国・県のご尽力、ご努力により、災害関連緊急砂防事業等に取組んでいただいております。下流から地域を眺めると、お隣の東かがわ市内も砂防堰堤工事を実施していることから、森行要塞といった観があります。

これらの整備等を通じ、今後、地球温暖化による異常気象の豪雨等による土石流災害をできるだけ未然に防ぎ、人的被害ゼロになるよう努力したいと思います。



通谷川被災直後(人家全壊・死者1名)



「門入よさこい」祭り



香川県土木部河川砂防課長 田村 寛司

「効果の見える治水事業」

香川県 通谷川(さぬき市)の砂防事業

『災害関連緊急砂防事業及び砂防激甚災害対策特別緊急事業』

【香川県の土砂災害について】

本県の気候は瀬戸内海式気候に分類され、温暖で降水量が少ないことから、「香川県は土砂災害が少ない県」と思われてきました。実際、昭和49,51年に甚大な土砂災害が発生してからは約30年の間、大きな土砂災害に見舞われることなく経過してきました。(平成15年以前の過去10年間における土砂災害発生件数は22件で全国で45位)

しかし、平成16年は6月の台風4号から10月の23号まで10個の台風が日本列島に襲来し、そのうち9個が本県に甚大な被害をもたらしました。土砂災害は台風11,15,21,23号をあわせると、本県のほぼ全域で発生し、土石流111件、地すべり2件、がけ崩れ91件で合計は204件にものぼりましたが、これは全国で3番目に多い件数でした。(土石流の111件は全国で1位)

【通谷川の被災】

平成16年10月20日、時間91mmの記録的な豪雨の影響で、さぬき市大川町田面の森行地区では通谷川やその他の溪流で土石流が発生し、人的被害の他、家屋の全壊1棟、半壊2棟、一部破損4棟、床上浸水6棟、床下浸水4棟等の大きな被害が発生しました。

【事業概要】

平成16年度災害関連緊急砂防事業でえん堤工を1基、平成17,18年度砂防激甚災害対策特別緊急事業で溪流保全工L=419mを整備しました。これらハード整備以外に土砂災害警戒区域を県内で初めて指定するなど、ソフト対策にも積極的に取り組んでいます。また、香川県ホームページに土砂災害危険箇所図、土砂災害警戒区域、砂防情報システム等を掲載し、県民の多くが土砂災害に関する情報を得られるようにしました。

《通谷川の事業実施内容》

- 【H16災害関連緊急砂防事業】
 - ・えん堤工1基 (平成17年12月28日竣工)
 - 堤高:H=12.0m、堤長:L=105.5m
- 【H17,18砂防激甚災害対策特別緊急事業】
 - ・溪流保全工(平成19年7月31日竣工)
 - 延長:L=419.0m
- ◎効果量:えん堤工は5,650m³の土砂を捕捉
溪流保全工は1,680m³の土砂流出を抑制
- ◎保全対象:人家14戸、集会所1戸、耕地3.7ha、市道0.5km、道路橋5基



通谷川 砂防えん堤工
下流域に流出した大量の不安定土砂をできるだけ効果的に捕捉するため、えん堤工を可能な限り下流側の位置にした。
そのため、左右岸ともに45°の角度で袖部を折った珍しい形状のえん堤工となった。



通谷川 溪流保全工
急峻な地形のため、溪流保全工の延長L=419mのうち、落差工が20箇所ある。